



BAYSIDE PRESS

ベイサイドプレス

— 経・済・誌 —

30 | 07
2011 Vol. | 05

INDEX

- 01 シアターY (横浜経済劇場)
震災で現状化、横浜の住民づくりに「横浜発」のIT
- 02 大学発
「専修大」
暮らしと街のデータを見よう!
vol.7 地デジ化
- 03 シアターY
HAMA JOB 七重工業
- 04 水先案内人
[RESTAURANT BAR FONTANA]
社長ブログ
ニュースのサイド
サプライチェーン / 深まる相互依存関係



ITがつくる、地域の絆

マイホームは傾き、上下水道などライフラインは寸断…。東日本大震災で深刻な液状化被害を受けた千葉県浦安市舞浜地区。地元の「舞浜3丁目自治会」は震災の翌日、独自の災害対策本部を発足させ情報収集に努めるとともに、緊急連絡などを行うためのブログを開設した。

震災から5日後の3月16日には、ブログの抜粋をメールマガジン(メルマガ)にして携帯電話やパソコンに配信する試みを開始。地域住民に登録を呼び掛けた。メールには自治会が主催する住民説明会の案内のほか、汚泥処理を行うボランティアの募集、行政からの情報や新聞記事など地域に関するさまざまな内容を掲

載した。震災から間もなく4カ月になる今も配信は続いている。「舞浜は新興住民が多く、どちらからと言うと地域関係は希薄だった。しかし、メルマガの配信を始めて確実に、地域がつながっていると感じられるようになった」

そう話すのは震災発生時の同自治会広報委員長で、本年度は会長を務める肘井哲也(47)。ブログやメルマガの仕掛け人だ。

下水道改修時の立ち会いや駐車場に止めてある車の移動などをメルマガで依頼すると、住民がすみやかに応じてくれたことに「驚いた」という肘井。「戸別の回覧板では、周知に時間がかかる。IT(情報技術)の実力を実感しましたね」。

現在、メルマガの登録者は約600人。こうした新たな取り組みが自治会に対する住民の意識を変化させたのか、加入世帯も震災前より50増え、約500世帯になった。住民の高齢化や加入率の低下などで活動が停滞しがちな自治会も多い中、ITを使った自治会モデルの構築を試みる肘井らには、テレビや新聞の取材が相次いだ。

実は、同自治会が利用するサービスを開発したのが、横浜市中区のIT関連会社「ともクリエイションズ」。代表の渡辺桃世子と肘井は、以前から仕事を通じて知り合いだったという。

同社が2009年4月に提供を開始した「サポートチェル(Support you)」は、もともと法人向けのサービス。アンケートや資料請求などの入力フォームを作成したり、大量のメールを同時送信したりするほか、データ管理なども簡単にできるのが特徴だ。

従業員8人の会社を経営する地震の経験から、「ITに詳しい人材を配置する余裕のない中小企業をサポートしたい」と思ったのが、開発のきっかけ。災害時の連絡手段として使うことなど、想定外だった。

舞浜での試みを聞くうちに、渡辺は思いを強めた。「ITが地域の結びつきを深めるツールになる」

(敬称略、Ⅱ面に続く)

